

より安全で楽しい海外渡航のために 「感染症・予防接種・旅行外来」



この夏、海外旅行を計画されている方も多いのではないのでしょうか。昨今は老若男女を問わず、また高血圧症や糖尿病など持病のある方も海外旅行を楽しまれています。

渡航地域も都市部だけでなく、ジャングル、高地、砂漠地域といった場所へも手軽にでかけられる時代となり、旅行に伴う健康問題も増加しています。

■渡航前に予防できる病気があります

海外では数多くの感染症が流行しています。海外渡航時にかかる感染症の中にはワクチンで予防できるものも多くあります。「感染症・予防接種・旅行外来」では渡航先や渡航期間、現地での活動内容などに応じて、予防接種を実施しています。接種するワクチンによっては複数回接種が必要なものもあるため、できるだけ出発の1ヶ月以上前に同外来を受診ください。

■海外渡航中だけでなく渡航後の発熱にも要注意！

海外旅行後の体調不良（下痢などの胃腸症状、皮膚の異常、咳、発熱など）には、思わぬ感染症が潜んでいる可能性があります。受診が遅れ重症化するケースもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。受診の際は、渡航先、渡航期間、渡航の目的、渡航中の行動、宿泊先の状況（虫除け対策ができていたか）、渡航前の予防接種などの情報を整理して医師に伝えるようにしましょう。



春季防災避難訓練を実施



6月8日(土)午後、亀田総合病院B棟7階汚物洗浄室を模擬出火場所に想定し、春季防災避難訓練を実施しました。

当院では万が一の災害に備え、年2回、防災避難訓練を実施しています。今回は安房郡市消防本部鴨川消防署の皆様の立ち合いのもと訓練が行われました。訓練は事前に出火場所を公表しない形で行われ、火災の発見から連絡・通報、初期消火、避難・誘導など火災発生時の一連の対応を実践形式で確認したほか、補助散水栓と消火器を使った消火訓練も合わせて行いました。

福祉用具専門相談員講習会 ＜受講者募集中＞

高齢者や障がい者、そのご家族等が福祉用具を利用する際に、福祉用具にかかる専門的知識や技術をもって相談援助、適合等を行い、福祉用具の導入後も適切な利用についてサポートできる「福祉用具専門相談員」を養成する講習会を下記のとおり開催いたします。

日 時	8月3日(土)～8月30日(金)の間 8日間(概ね9時～17時)
会 場	亀田総合病院 継続学習センター 研修室
内 容	50時間 ※なお、1時間程度の修了試験があります。
受 講 料	27,000円(消費税込み・テキスト代金含む)
定 員	30名
申 込 締 切	7月10日(水) 締切
申 込 方 法	①履歴書(市販の物使用 B4サイズ、写真貼付) ②医療・福祉に関する資格があれば保有資格の修了証明書等の写し ③返信用封筒(92円切手貼付、宛先記入) 以上を下記まで郵送ください。 宛先 〒296-8602 鴨川市東町 929 亀田総合病院 継続学習センター
選 考 方 法	書類選考後に受講決定通知書を発送いたします
問 合 せ	04-7099-1165(直通)/月～金 午前9時～午後5時



7/6(土) サロンコンサート

7月6日(土)午後3時より亀田総合病院Kタワー1階ロビーにて、「サロンコンサート 誰もが知ってる、あの曲たちを」を開催いたします。

声楽家(ソプラノ)の岡田和奈氏とピアノ奏者の京増修史氏によるコンサートで、「春の小川」「夏は来ぬ」「冬景色」などふるさとの四季や、「Amazing Grace」「You Raise Me Up」など親しみのある曲を歌っていただきます。ぜひ美しい歌声を聴きにご来場ください。



便失禁に関する無料電話相談

便失禁でお悩みの方に、治療法を含む適切な情報を提供する目的で、毎月、専門医による無料電話相談を下記のとおり実施しています。

■日時：7月10日(水) 午後2時～4時

■電話番号：04-7099-1206(直通)

■対応者：角田明良医師(消化器外科 部長)





第7話 究極の低侵襲治療!? 超音波ガイド下治療

今回のコラムを担当させていただく、スポーツ医学科の高澤です。今年9月にせまったラグビーワールドカップに加え、来年には東京オリンピック・パラリンピックも控えており、非常に楽しみです。

今回は究極の低侵襲治療!?「超音波ガイド下治療」についてご紹介します。

まず、超音波検査と聞いて、皆さんは身体のどこを調べる検査を連想しますか? お腹だったり、心臓だったり、妊婦検診だったり人それぞれ違うと思いますが、整形外科領域を思い浮かべる方は少ないのではないかと思います。近年、超音波機器の発達で筋肉や靭帯が綺麗に見えるようになってきました。

これまでは診察で痛い場所を探し、問診で診断を絞り込み、詳しく検査が必要な場合はMRI検査やCT検査を行ってきました。しかし、超音波検査は診察室ですぐに行うことができるため1段飛ばしで診断を付けることができるようになりました。(残念ながら超音波は骨の中をみることができないため、骨に隠れて見えにくい場所や骨折を見るためにはMRI検査やCT検査が必要になります) 筋肉や靭帯のケガが多いスポーツ整形領域ではなおさら、大活躍できる検査になりました。

■診断だけ? いいえ違います!

ここまでは超音波検査の診断について書いてきましたが、実は超音波検査の凄さはここからです。注射をはじめとした治療にも役立てることができるのです。

当科では体の様々な部位に注射を行います。膝、肩などの関節をはじめとして筋肉や靭帯、さらには神経の周りにも打つことがあります。注射は正しい部位に打たなければ効果がなく、超音波検査は正しい場所に

誘導する道具としても使うことができます。人の体は痩せていたり、太っていたり体格はそれぞれに違いがあります。しかし、針を見ながら注射を行うことで効果的かつ安全に行うことができるようになりました。

■手術への応用『木を見て森も見る』

当科では関節鏡という胃カメラよりも細いカメラを関節の中に入れて行う手術を行っています。関節鏡自体が複数のカメラや道具を挿入する穴だけで済むので体への負担は少ない手術ですが、さらに超音波検査を手術中に併用することがあります。関節鏡は小さい病変を大きなモニターに映して手術を行っています。しかし、時折全体像を把握したいときに超音波検査を併用することで、『木を見て森を見ず』にならないように手術を進めることができます。

■頑固な痛みには体外衝撃波治療!?

最後に体外衝撃波治療の紹介をさせていただきます。難しい名前ですが、医療現場ではもともと尿管に石が詰まる尿路結石に対して行われていた治療です。簡単に仕組みを言うと、音速より早い超音波の一種である衝撃波を痛みのある部位に当てます。衝撃波を当てることで慢性的な痛みの原因となっている神経に作用して痛みを抑える効果があります。当科ではリハビリテーションや注射などを行ってもなかなか痛みが取り切れない方に行っております。ただし、この治療は保険適用でできる箇所が現在のところ足の裏が痛くなる「足底腱膜炎」に限られています。そのため、その他の場所に関しては自由診療(自費)になります。興味があり、もう少し詳しいことが知りたい方は担当医にご相談いただければと思います。



医師紹介

こばやし えり
小林 絵梨 医師

- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言



①集中治療科(医長代理)

②救急、集中治療

③ピアノ、旅行

④新しい環境で沢山の事を学び、日々の診療に生かしていきたいと思っています



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <http://www.kameda.com>